

2010/11/12

柏の景気情報（平成22年10月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成22年10月分）

○ 調査期間 : 平成22年10月20日 ~ 10月25日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	76	71.0%
建設	19	15	78.9%
製造	23	16	69.6%
卸・小売	43	30	69.8%
サービス	22	15	68.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年10月の調査結果のポイント】

《業況DIわずかに回復 全国と同水準》

○10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.7(前月水準▲44.7)となり、マイナス幅が△4.0ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲56.6(同▲72.0)、製造業±0.0(同▲6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲33.3)、サービス業▲53.3(同▲50.0)である。

【建設業】からは、「公共工事入札では最低制限価格や低入札価格で応札する業者がいるため、工事費を積算して会社経営を含めた価格で入札しても落札できない状態が続いている」(土木工事業)、「このまま年を越せるのでしょうか」(土木工事業)、「売上高はわずかに増加。しかし仕入以外の経費が多く利益が圧迫されている。相変わらず予算も厳しい」(電気工事業)などの声が寄せられた。

【製造業】からは、「低価格がますます進行するであろうと考えられる」(一般産業用機械設備製造業)、「依然として景気が改善してきているという実感が持てない。良い話も聞こえてこない」(その他の機械・同部分品製造業)という意見が寄せられた。

【卸小売業】からは、「引く業況の悪化に伴い、給与削減する会社が出てきました」(食料・飲料卸売業)、「夏の猛暑の影響から野菜果実ともに入荷が減少し高値が続いています。今後は気候が平均並みとなり野菜の成長が進むことから入荷が増え安定的価格に落ち着く傾向もあります。全体的市場情勢は売上減少の厳しい状況です」(食料・飲料卸売業)、「たばこ税値上げの前の買い置き需要があり売り上げ上昇したが、その後はその反動で減少している」(その他の各種商品小売業)、といった内容のコメントが上がってきた。

◎秋冬物商戦

各業種から、「近隣に大型店がオープンするため注意している。季節感がなく商品の売り込みが難しい。客単価も低い。冬物の売れ行きはすべりだし好調」(その他の飲食料品小売業)、「商品が秋冬物に変わったが、商品単価の下落傾向は収まらず、低価格商品しか売れていない」(その他の各種商品小売業)、「10月度は先月後半からようやく秋らしい気温になったことから月初は秋冬商材が本格的に動き出したことから売り上げ高は前年を上回る推移となった。また、先月29日から開催した秋のグルメフェアで飲食店が客単価をあげ、全体の底上げにつながった。中旬気温が低下してからは衣料品の動きも停滞、雑貨大型店が軒並み客数を落とし苦戦したことから前年並みの推移となった。月末にかけては冬衣料の販売を強化し客単価をあげて売り上げにつなげていきたい」(各種商品小売業)など、さまざまなコメントが寄せられた。

◎売上不振

各業種から、「売上、入店客数ともに厳しいスタートであった」(百貨店)、「エコカー補助金が終了して新車販売が厳しくなった」(自動車小売業)、「記録づくめの猛暑にはまりガス消費量が大幅ダウン。したがって売り上げもダウン。それが10月まで尾を引いている」(燃料小売業)など、さまざまな声が上がってきた。

◎円高の影響

各業種から、「宿泊は国体に期待していたが、選手応援者を含め期待外れ。宴会は平日の企業の会議セミナーの減少、土日の個人宴会に集中する。円高により昨年対で外国人客が若干減少」(ホテル)、「温浴施設のボイラーは都市ガスを利用しているので円高効果で価格が下がるのを期待している」(公衆浴場業)などのコメントがあった。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲43.0	▲33.3	▲12.5	▲62.9	▲50.0
6月	▲42.6	▲46.1	±0.0	▲65.5	▲33.3
7月	▲30.0	▲42.8	△18.7	▲51.8	▲30.7
8月	▲38.0	▲50.0	△21.4	▲58.6	▲42.8
9月	▲44.7	▲33.3	▲6.6	▲72.0	▲50.0
10月	▲40.7	▲40.0	±0.0	▲56.6	▲53.3
見通し	▲34.2	▲26.6	▲37.5	▲36.6	▲33.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.7(前月水準▲44.7)となり、マイナス幅が△4.0ポイント縮小した。

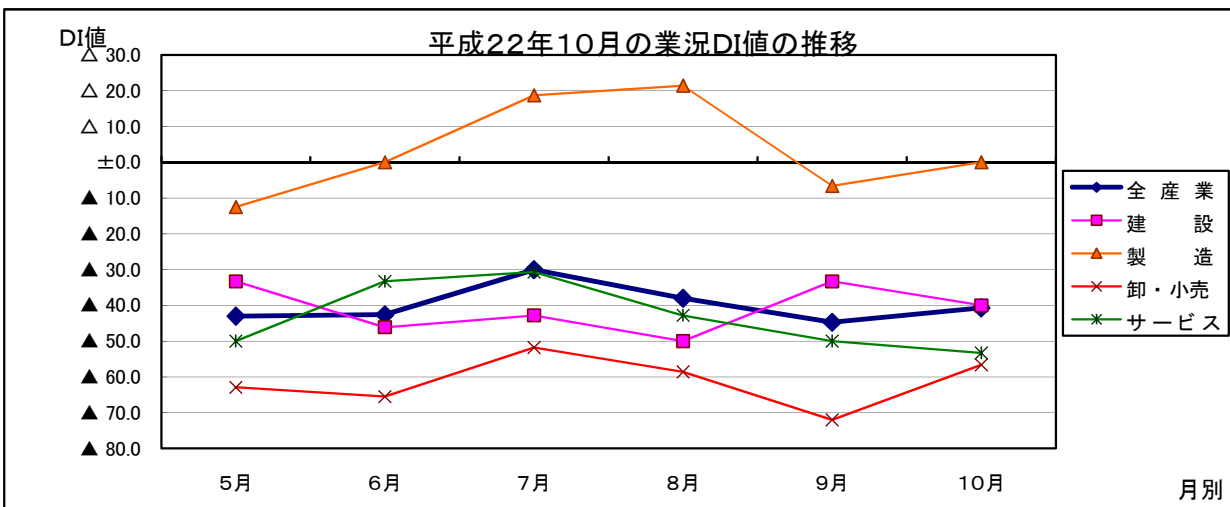
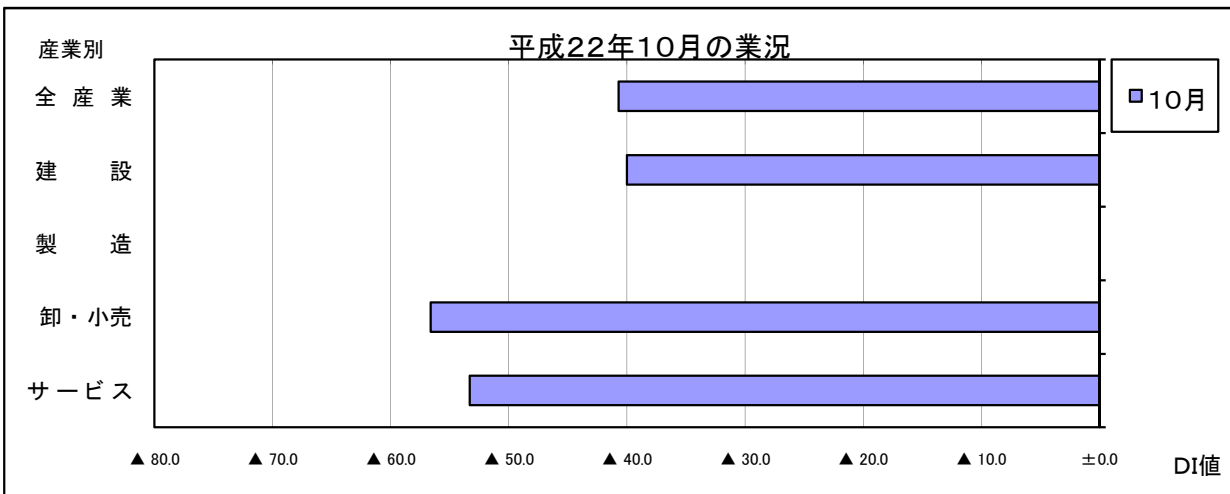
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲56.6(同▲72.0)、製造業±0.0(同▲6.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲33.3)、サービス業▲53.3(同▲50.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲34.2(前月水準▲31.3)となり、マイナス幅が▲2.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲33.3(同▲41.6)である。変らない見通しの業種は、建設業▲26.6(同▲26.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲37.5(同▲26.6)、卸小売業▲36.6(同▲32.0)である。

平成22年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲43.0	▲42.6	▲30.0	▲38.0	▲44.7	▲40.7	▲34.2(▲31.3)
建設	▲33.3	▲46.1	▲42.8	▲50.0	▲33.3	▲40.0	▲26.6(▲26.6)
製造	▲12.5	±0.0	△18.7	△21.4	▲6.6	±0.0	▲37.5(▲26.6)
卸・小売	▲62.9	▲65.5	▲51.8	▲58.6	▲72.0	▲56.6	▲36.6(▲32.0)
サービス	▲50.0	▲33.3	▲30.7	▲42.8	▲50.0	▲53.3	▲33.3(▲41.6)



【平成22年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.0(前月水準▲38.8)となり、マイナス幅が△17.8ポイント縮小した。

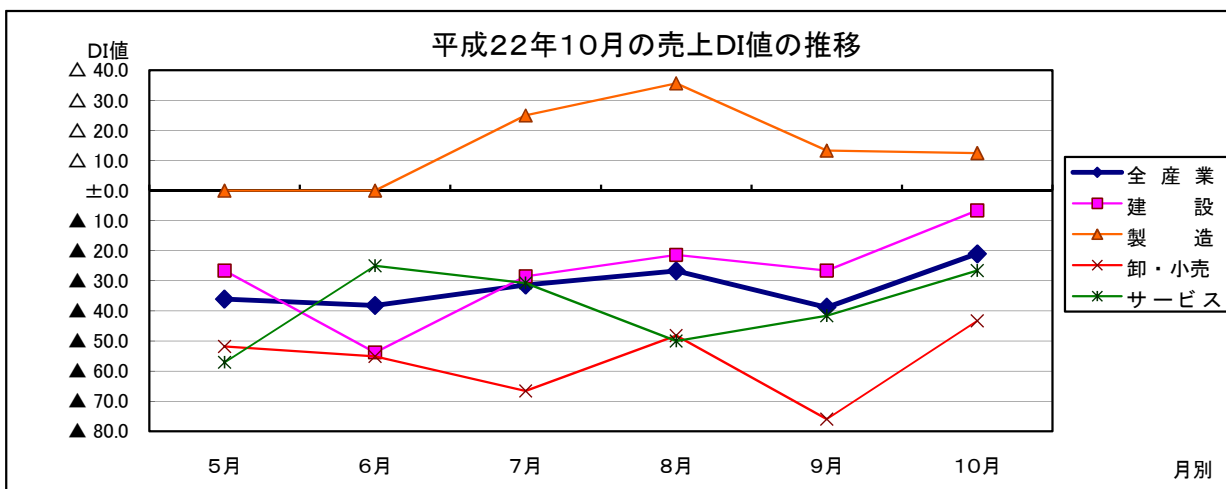
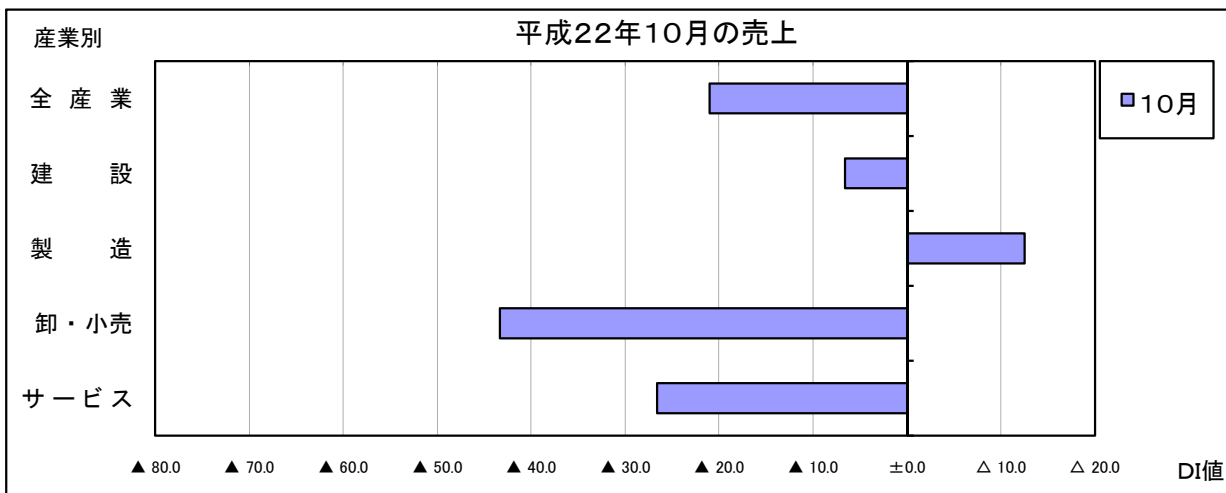
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲43.3(同▲76.0)、建設業▲6.6(同▲26.6)、サービス業▲26.6(同▲41.6)、である。特に、卸小売業はマイナス幅が△32.7ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、製造業△12.5(同△13.3)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.0(前月水準▲26.8)となり、マイナス幅が△1.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲33.3)、建設業▲20.0(同▲40.0)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△26.7ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲43.7(同▲26.6)、卸小売業▲26.6(同▲16.0)である。

平成22年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲36.1	▲38.2	▲31.4	▲26.7	▲38.8	▲21.0	▲25.0(▲26.8)
建設	▲26.6	▲53.8	▲28.5	▲21.4	▲26.6	▲6.6	▲20.0(▲40.0)
製造	±0.0	±0.0	△25.0	△35.7	△13.3	△12.5	▲43.7(▲26.6)
卸・小売	▲51.8	▲55.1	▲66.6	▲48.2	▲76.0	▲43.3	▲26.6(▲16.0)
サービス	▲57.1	▲25.0	▲30.7	▲50.0	▲41.6	▲26.6	▲6.6(▲33.3)



【平成22年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.8(前月水準▲47.7)となり、マイナス幅が△14.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△25.0(同△6.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲46.6(同▲66.6)、卸小売業▲53.3(同▲72.0)、サービス業▲40.0(同▲41.6)であり、特に、建設業はマイナス幅が△20.0ポイントと大幅に縮小した。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.8(前月水準▲37.3)となり、マイナス幅が△0.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.6(同▲46.6)、サービス業▲26.6(同▲33.3)である。特に、建設業はマイナス幅が△20.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲43.7(同▲26.6)、卸小売業▲43.3(同▲40.0)である。

平成22年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成22年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲44.4	▲51.4	▲37.1	▲49.2	▲47.7	▲32.8	▲36.8(▲37.3)
建設	▲66.6	▲92.3	▲57.1	▲71.4	▲66.6	▲46.6	▲26.6(▲46.6)
製造	△6.2	±0.0	△18.7	△7.1	△6.6	△25.0	▲43.7(▲26.6)
卸・小売	▲59.2	▲65.5	▲62.9	▲65.5	▲72.0	▲53.3	▲43.3(▲40.0)
サービス	▲50.0	▲33.3	▲30.7	▲50.0	▲41.6	▲40.0	▲26.6(▲33.3)

